

蔵本隆文議員

行政における「まちづくり協議会」の位置づけについて

議員 平成24年度より市内24地区でまちづくり協議会が一斉にスタートすることになっている。しかし、市民の間では「市は我々に一体何をさせようとしているのか」という疑問の声をよく聞く。

①まちづくり協議会計画を立ち上げたのは行政である。この計画によつて目標としてどのような笠岡市を作ろうとしているのか、ビジョンを示してもらいたい。

②市は行政の仕組みの一環として、まちづくり協議会をどのように機能させていこうとしているのか。

市長 ①目標としているビジョンは、いわゆる笠岡市版の地域主権の推進である。

まちづくり協議会に住民が集まり、地域の課題ややり



たいことを話し合い、そこで出た課題・問題等に対し、住民の経験や力を結集して、行政とも協働しながら、住民が主体となつた課題の解

決や地域づくりをしていくような仕組みを構築していきたいと考えている。

②まちづくり協議会で地域の課題などを話し合つてい

ただき、話しかわれたことは市の担当課につなぎ、施策に生かしていくないと考

えている。

議員 本市の人事においても、定年2、3年前で部長就任の傾向があるが、これで果たして躍動的な仕事が望めるのか。

市長 このことで仕事に支障を来すとか、組織の活性化に支障を来すといったことにはならないと考

れから先の国保の運営は予測が大変難しい。今後の動向を十分見極めながら、税率等についても検討していく

議員 いかに健康で幸せな暮らしができるかという点で、何としてもこの国保の負担の軽減というのは思

ると思う。だから、協働のまちづくりによつて、行政と市民のかけ離れたものを一つにしようと、市民と一緒にまちづくりを進めしていく。そうすることにより、市の財政の健全化も図れるし、市民の皆さんも満足していただける。そういうものにぜひともしていかなければならない。

人事について

議員 高過ぎて払い切れない国民健康保険税を引き続

き引き下げ、市民が安心して暮らせる笠岡市をさらに前に進めていくはどうか。

市長 国保の税率については、将来にわたり持続可能で健全な国保運営を行うこ

とができるよう、慎重に検討してきた結果である。高齢化や医療技術の進歩による医療費の伸び、経済不況による所得額の動向等、目

まぐるしく変化する中、こ

れから先の国保の運営は予測が大変難しい。今後の動向を十分見極めながら、税率等についても検討していく

議員 いかに健康で幸せな暮らしができるかという点で、何としてもこの国保の負担の軽減というのは思

る。今後考へる気はないか。

議員 いうのは国の責任だから、国においてしっかりと対応すべきと思つていて。国に

対して強力に要請していこ

原田毅議員

市民の幸せ、安心・安

定住促進策について

議員 高齢社会がさらに進展する状況の中、人口が少

なくとも、また高齢者でも安心してその地域で住み続

けられるまちづくりに一層取り組んでいく必要がある

と思う。こういう角度から、今後の定住促進策について検討する考え方はどうか。

市長 現在計画している第6次笠岡市総合計画の全

ての施策を一つ一つ着実に進

めることによって、人口の定住化につながつてくると

思つていて。高齢者や障害者の皆さんに優しく手を差し伸べていく、そして、子どもを大切にする政治とい

うのが極めて大切だと思つ

ていて。